

嵐山町制 50 周年記念特集号・議会だよりを発行します。

10 月 1 日発行です。

■菅谷村と七郷村が合併し、町制になり嵐山町の変化は・・・町制 50 周年を記念して、議会報編集委員会で 1 年近くかけて取り組みました。

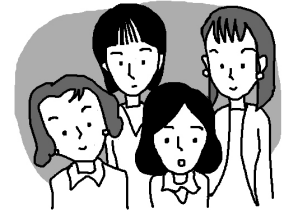
6 人の編集委員(川口・河井・佐久間・森・吉本・渋谷)が見て 50 年の変化がわかるように古い写真を探すのが一苦勞でした。

・嵐山町議員は 50 年間で 93 人、そのうち女性は 7 名。

嵐山町議会は、男社会です。町政もそうです。男尊女卑、家父長政治です。日本全体が家父長政治で、女性は住みにくい・子どもが育てにくい国です。

・女性の意見は、「男の甲斐性で聞いてやる」と議会答弁と議会運営で感じます。が、少しずつ崩れてきたし、崩します。

・小中学校の男女混合名簿は大きな変化です(平成14年)。



それまで、男の子が先、女の子が後の名簿でした。人の潜在意識に男尊女卑を植え付けていました。混合名簿で育った世代が、社会をリードする時代に入ると町政も変わるはず。

卒業したい。おじさん主役の政治と議会



■おじさん色の議会は利益追求と大型事業が好きでナワバリ意識とケンイとメンツが厄介。

■安倍政権は、消滅可能性自治体のレッテルをちらつかせ、交付金を目の前にぶら下げて、市町村競争をさせます。そうやって地方を活性化させる政策を進めています。嵐山町も安倍政権の政策に乗ったので、町は、いつも忙しくごたごたしています。

■税収を増やすことは大切です。そのために国がだす交付金や補助金は、国の借金。無駄をなくして生産的になる政策は、国主導に頼らない。地域のなかの可能性を調査追求することから始まるはずです。

残土問題

■嵐山町は丘陵地域で、交通の便がよく、残土や産業廃棄物を運ぶのに都合がよい地形です。東京オリンピックの工事が始まると、嵐山町は、残土捨て場がいい場所です。

■7 月、平沢の直売所のほうから、遠山に抜ける町道(町道 1-12 号線)の私有地に、大量の残土が 2 週間ほどで運ばれました。

■斜面地で、土留めの擁壁がつくられていないので豪雨だと土砂崩れがおきます。ため池や農業水路がつぶされる危険があります。

こういった問題にどう対応していくか課題は大きいです。

